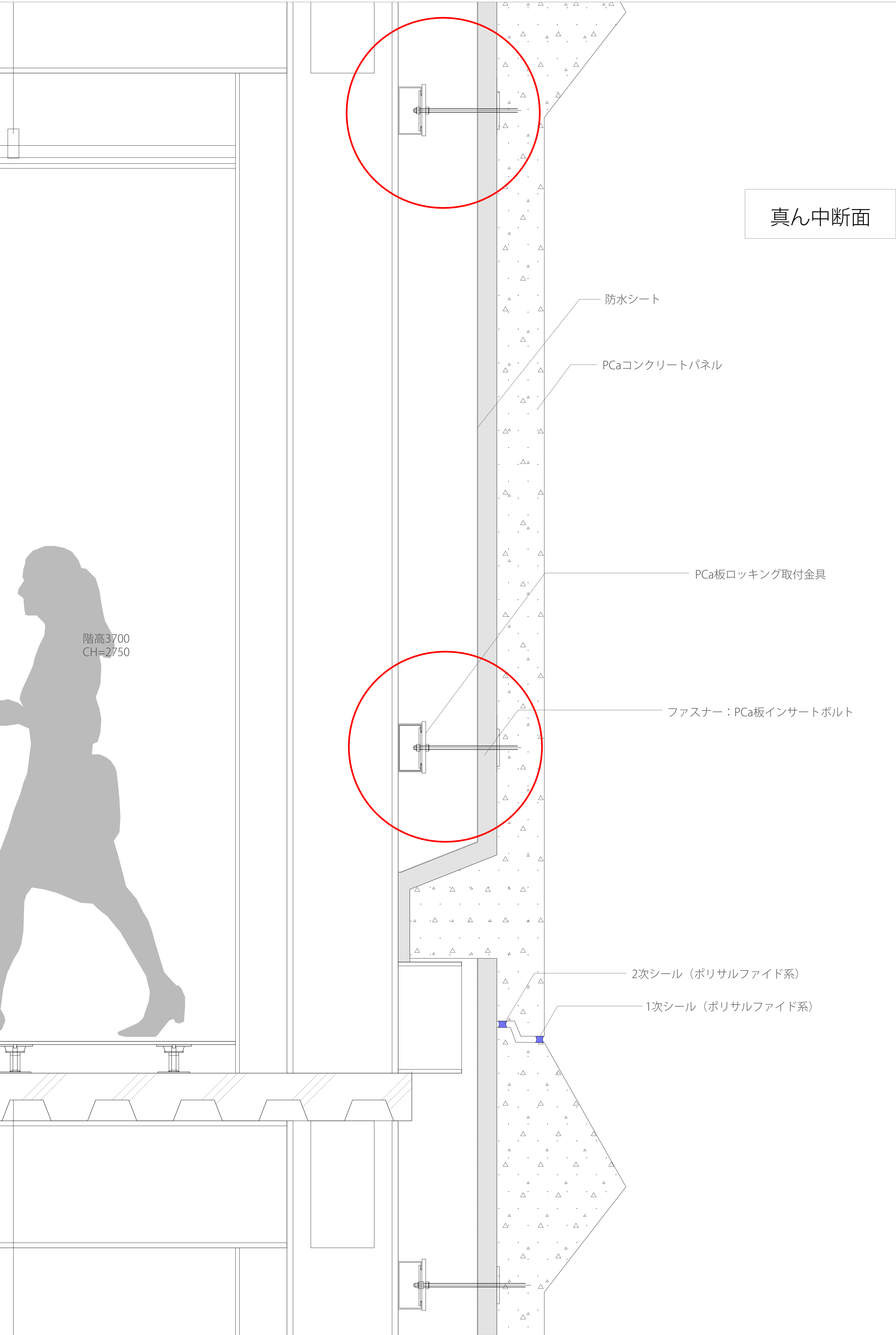
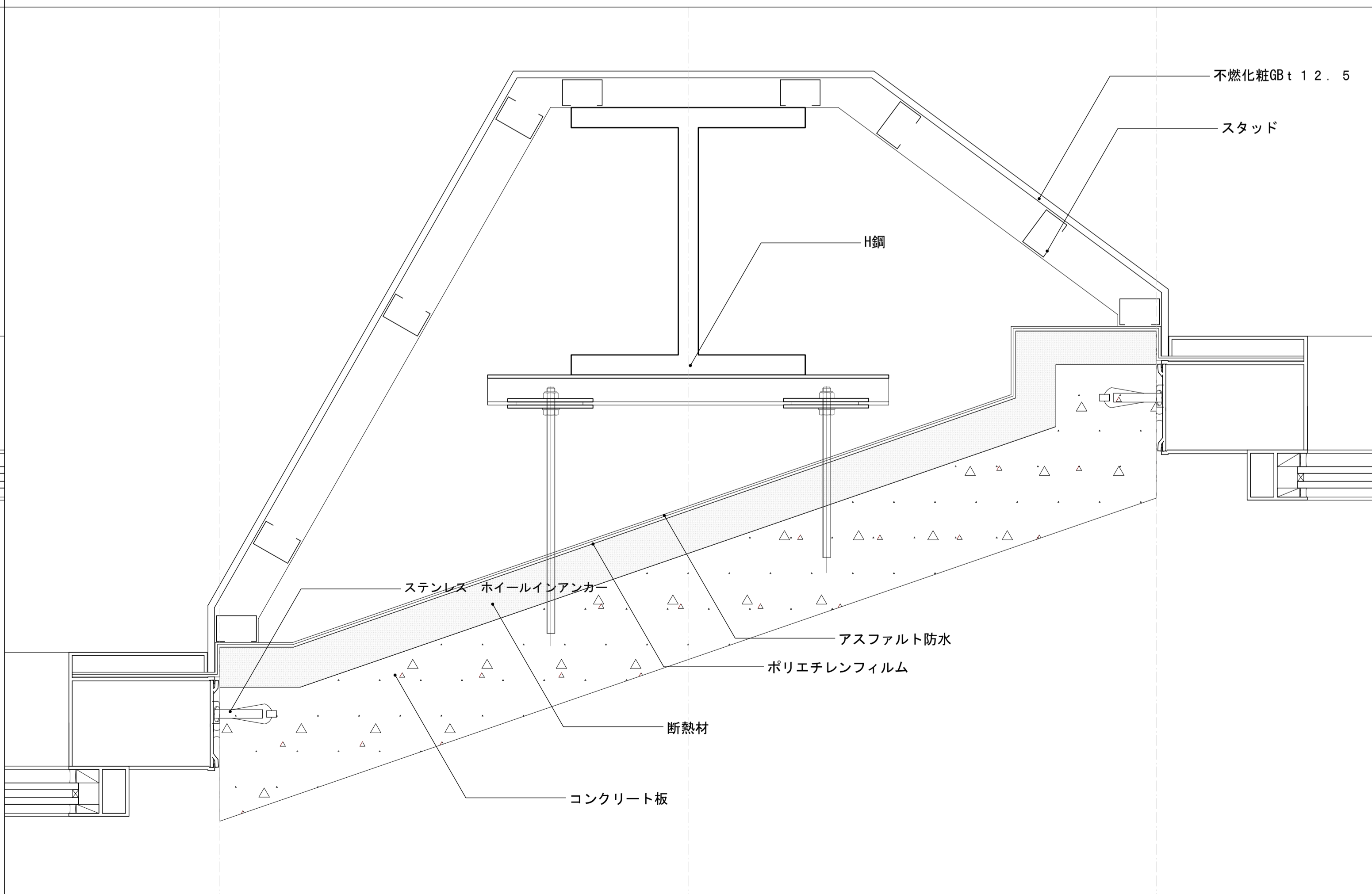
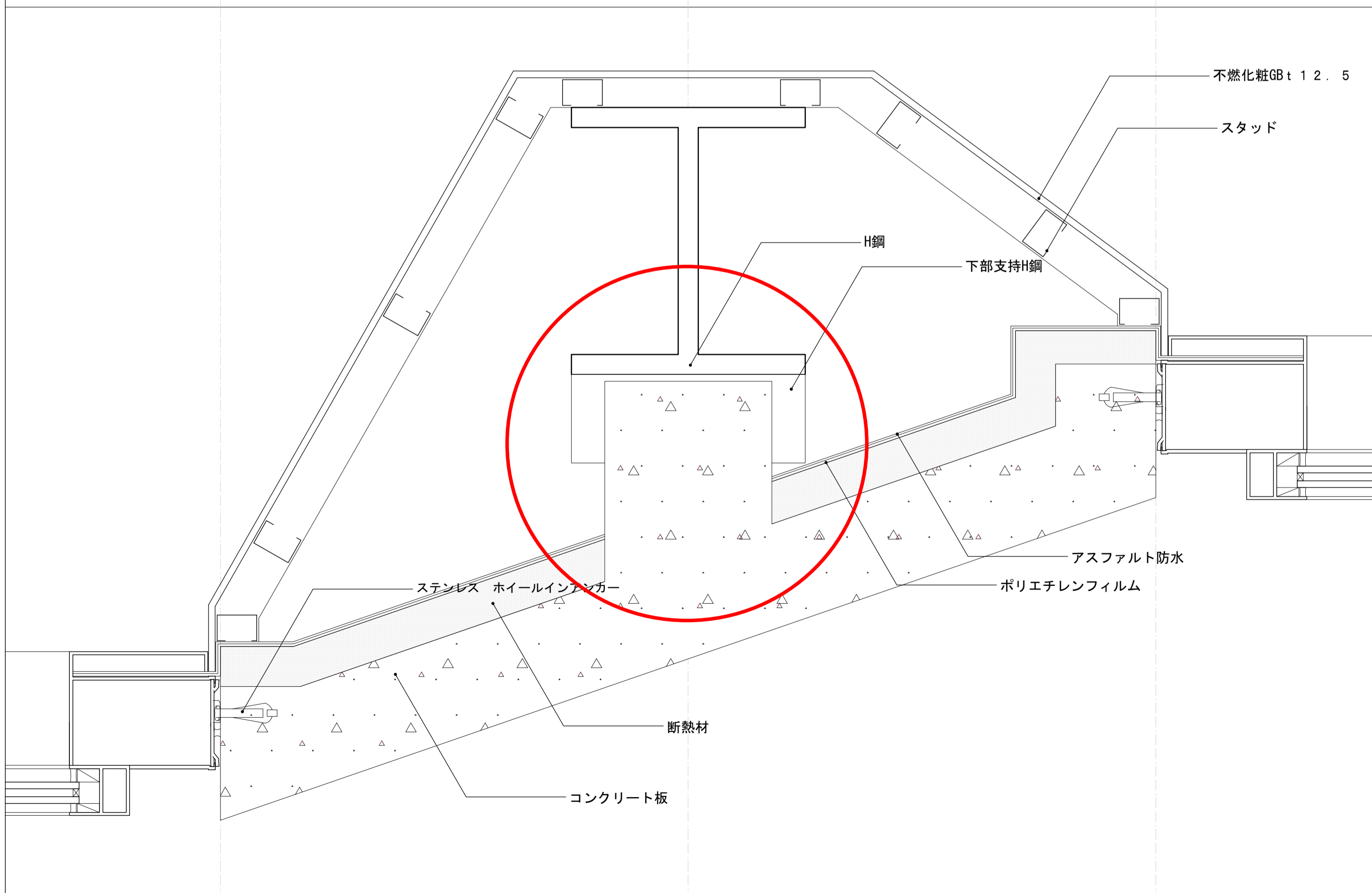
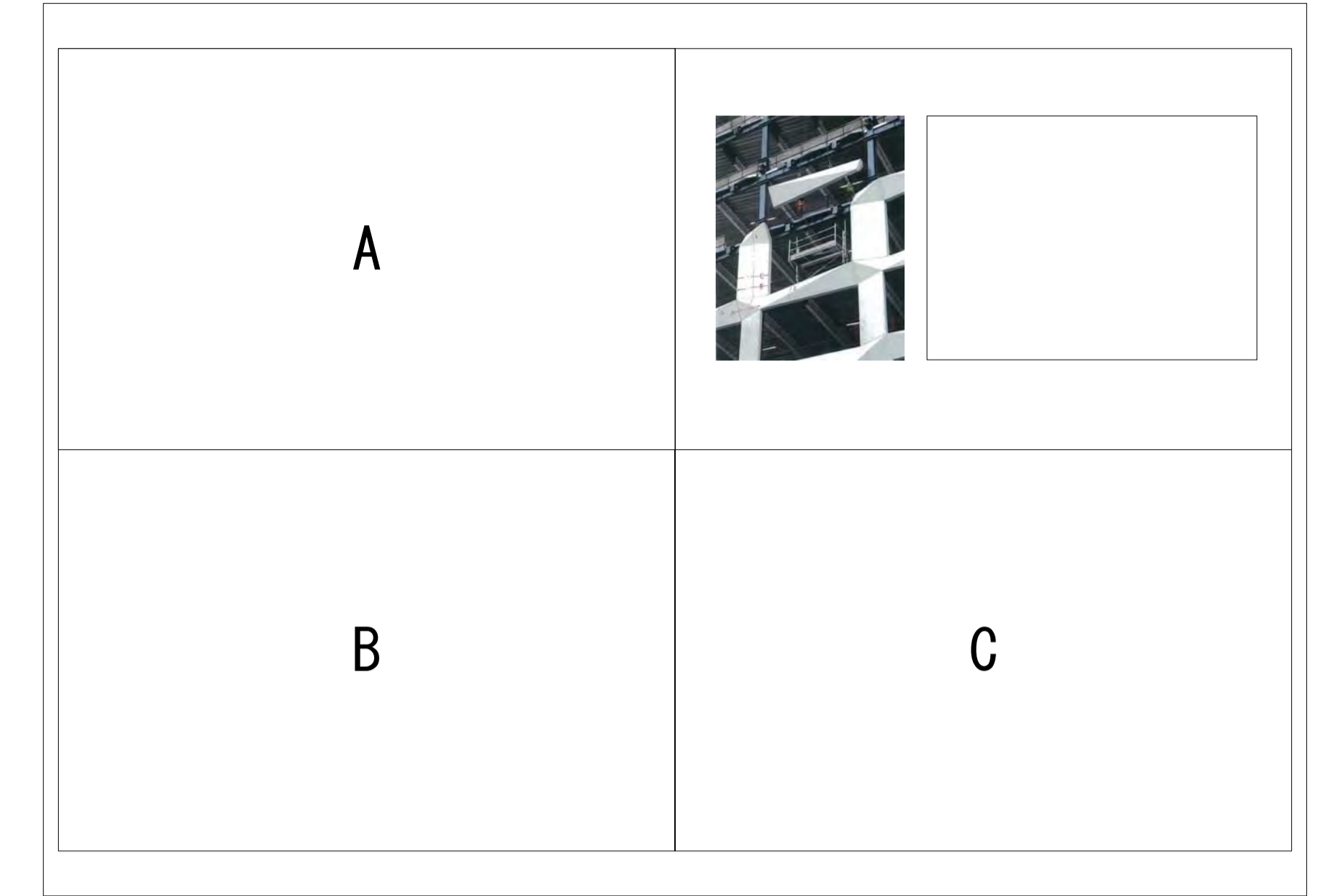
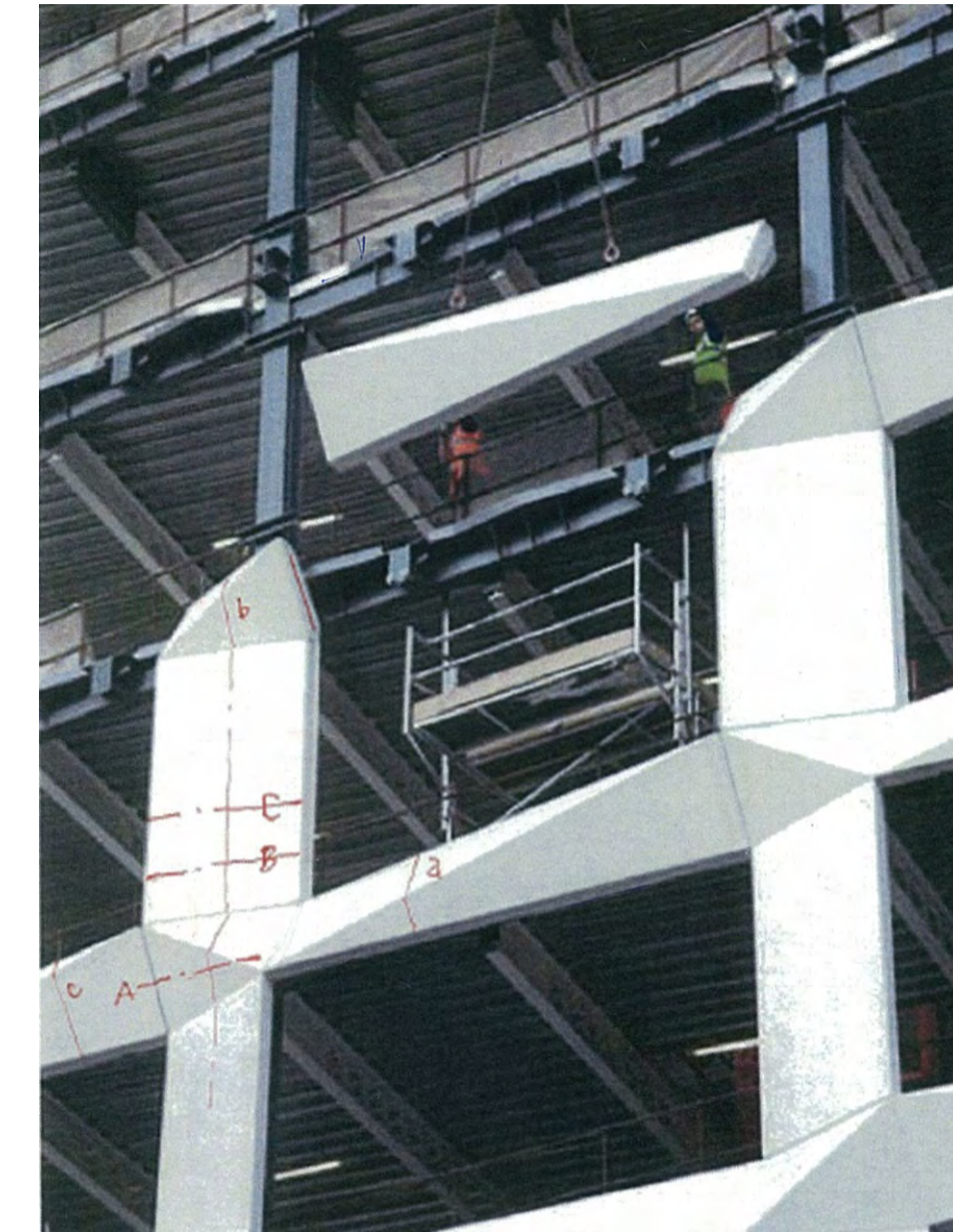
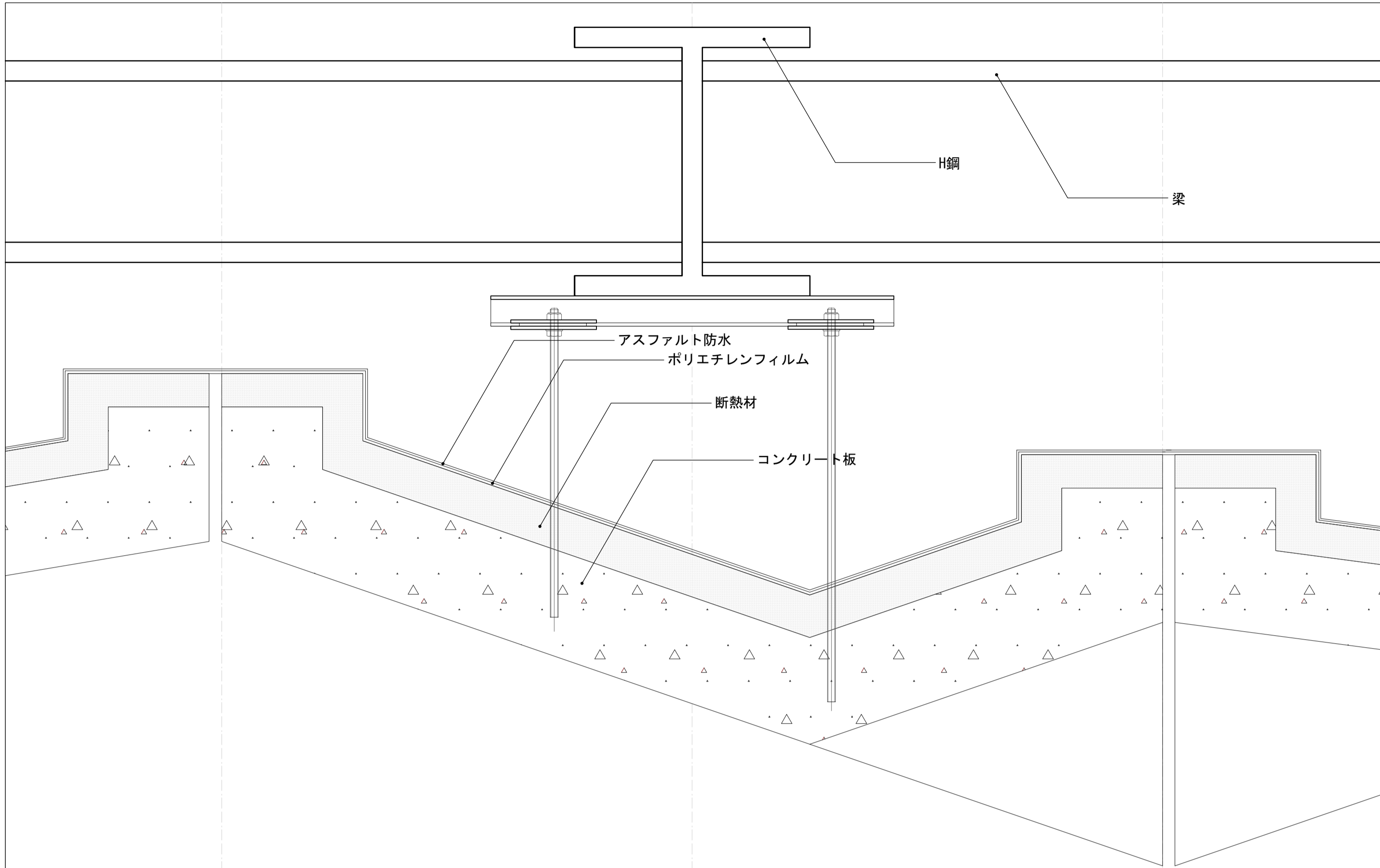
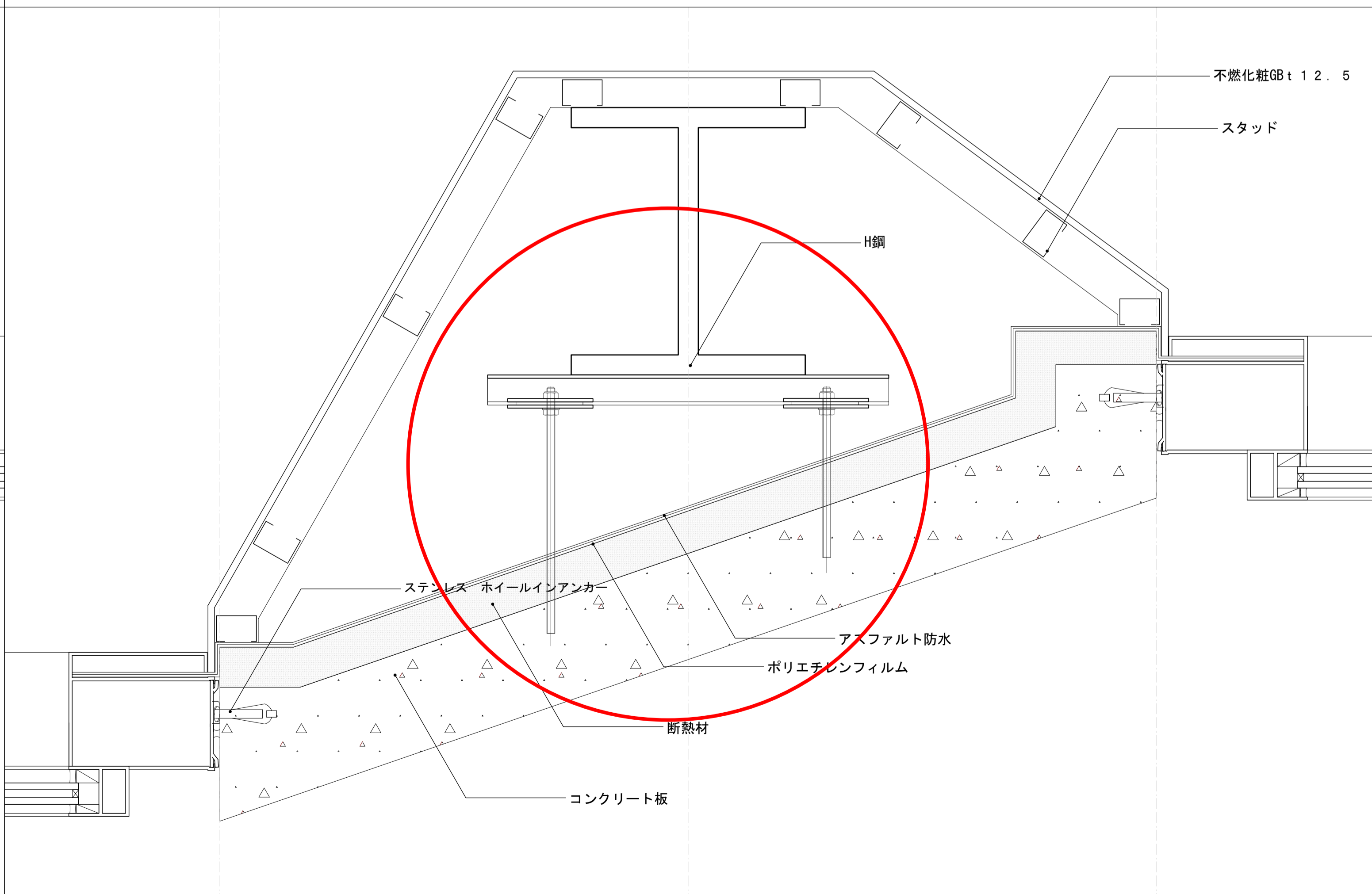
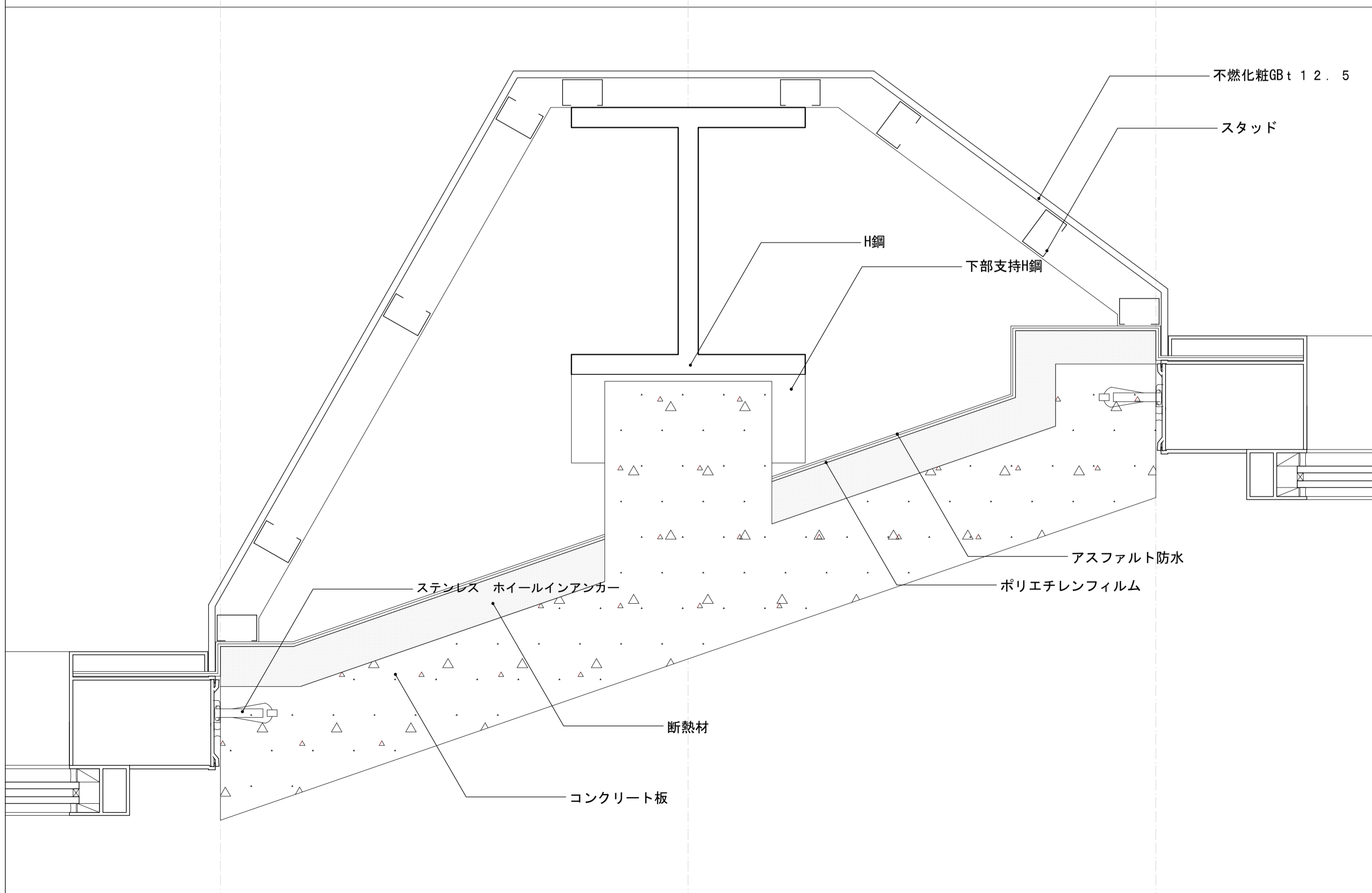
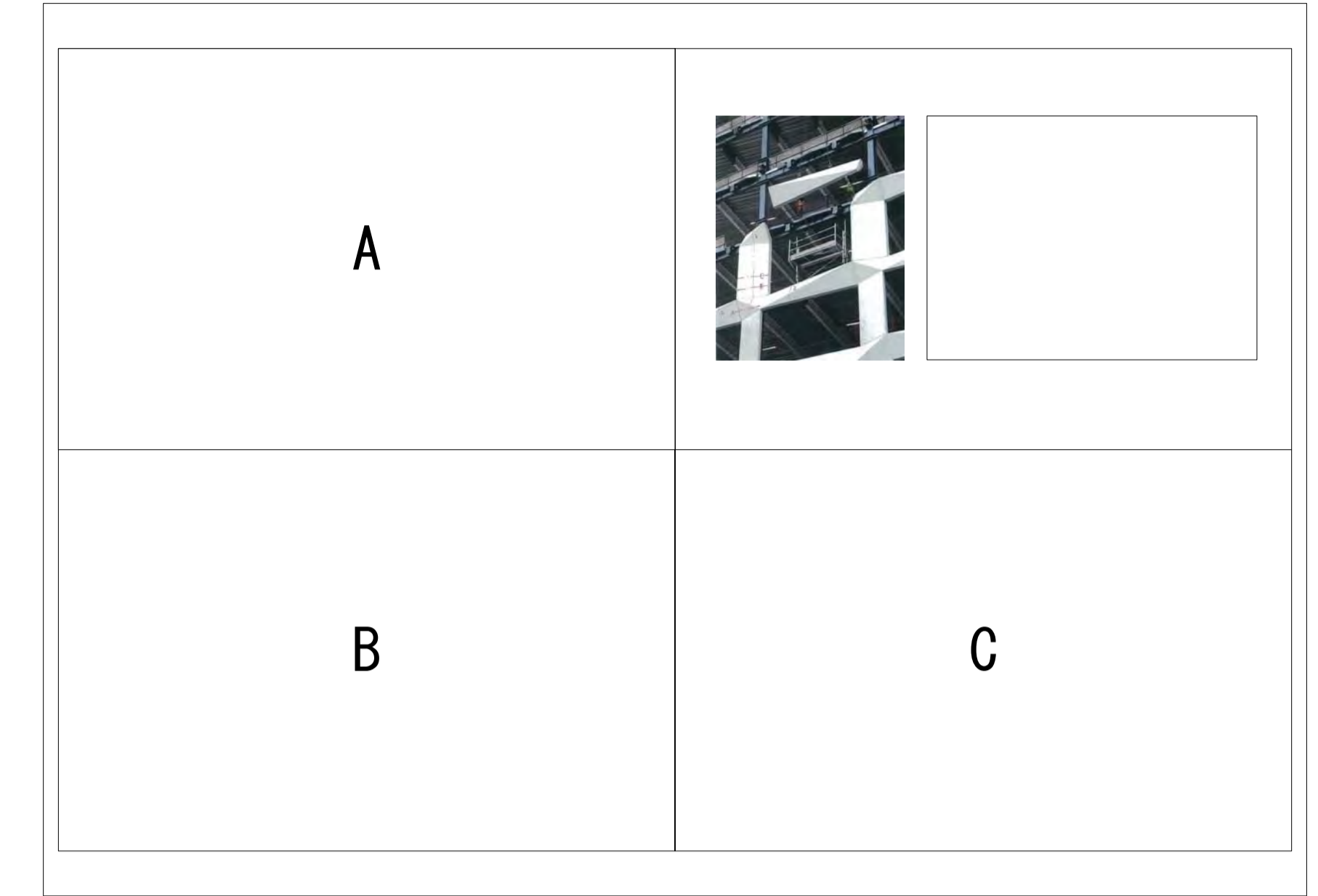
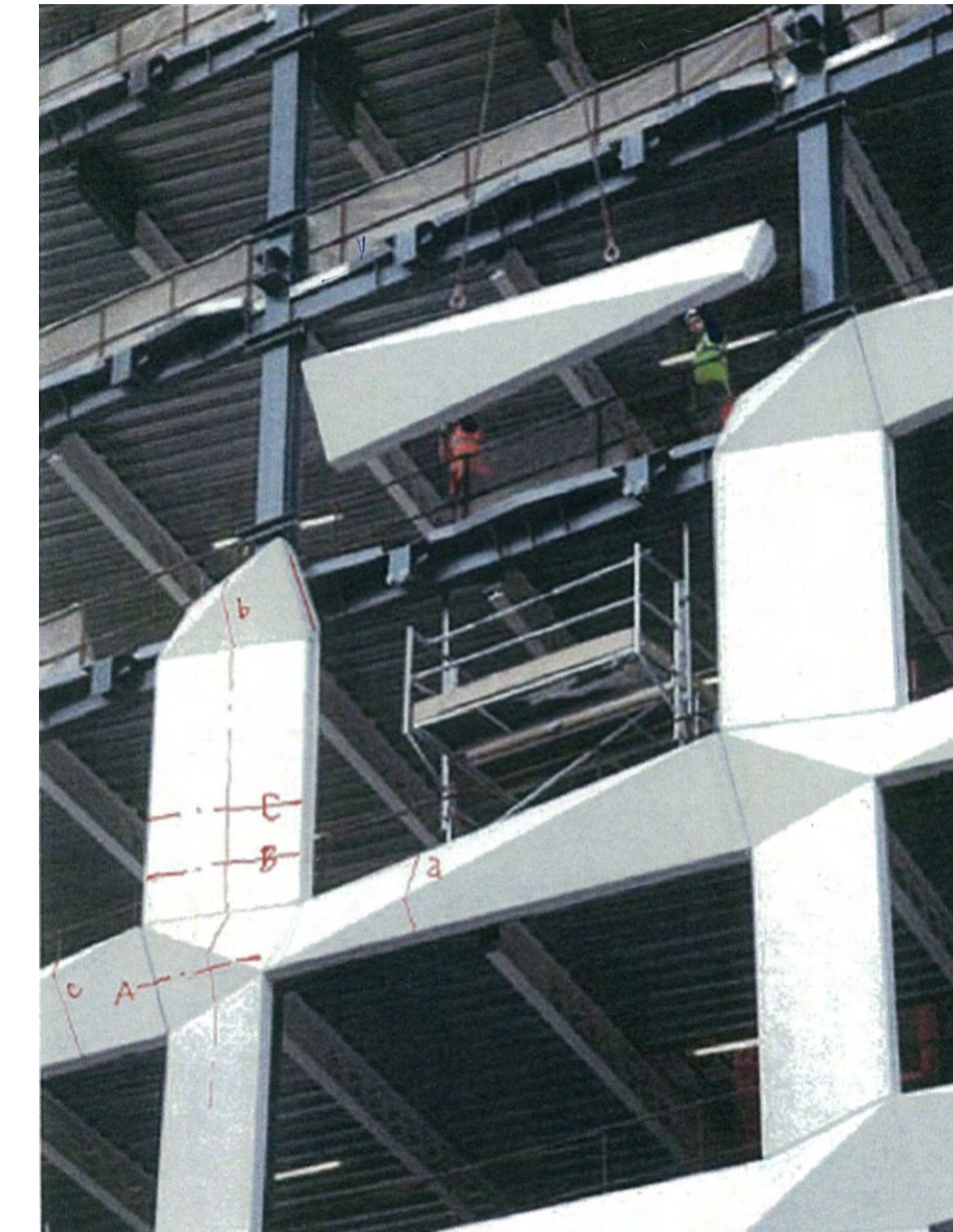
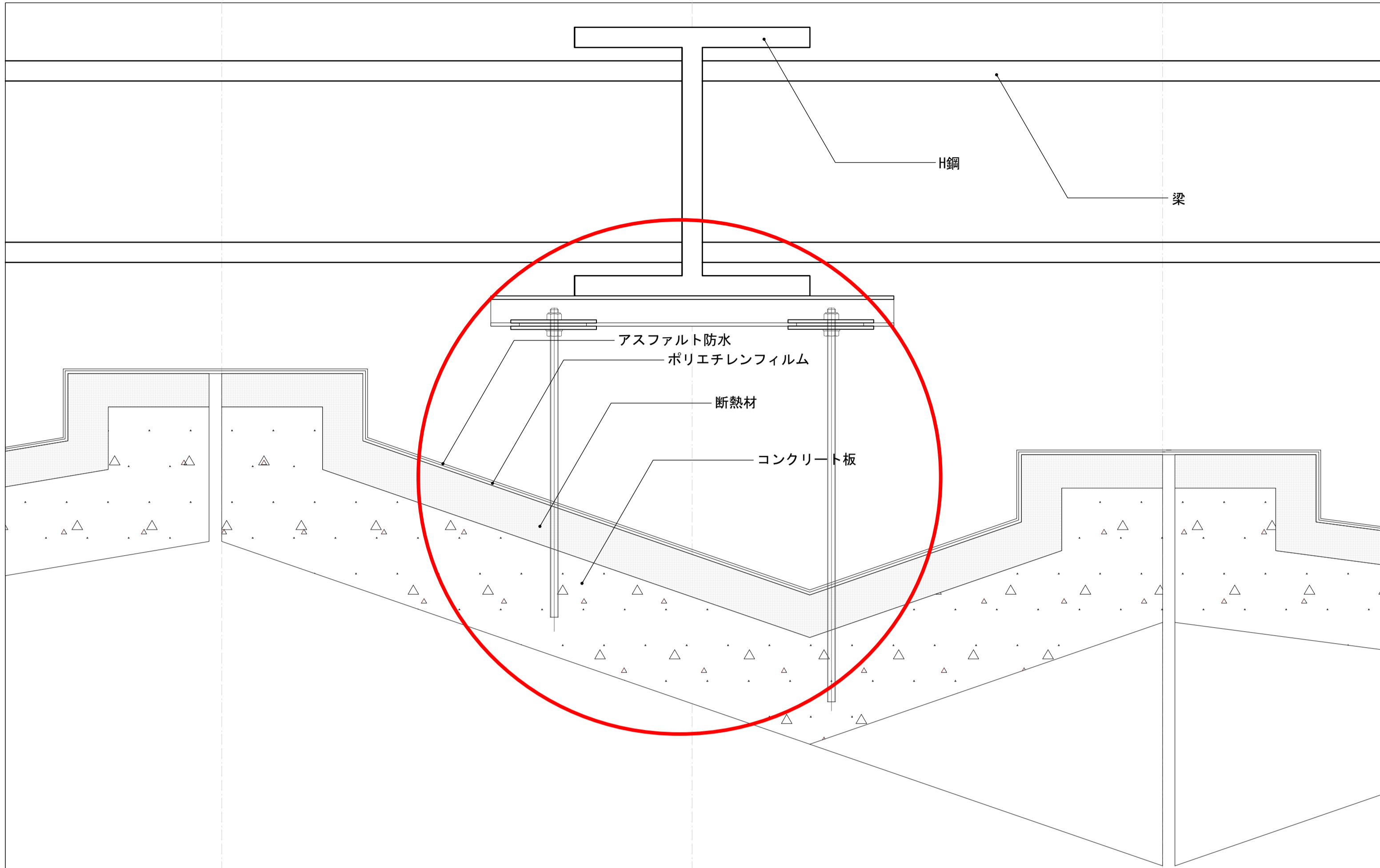


**H型鋼に、かぎ型に整形したPCa板を置き、下部で荷重を受けるピン接合点とする。**

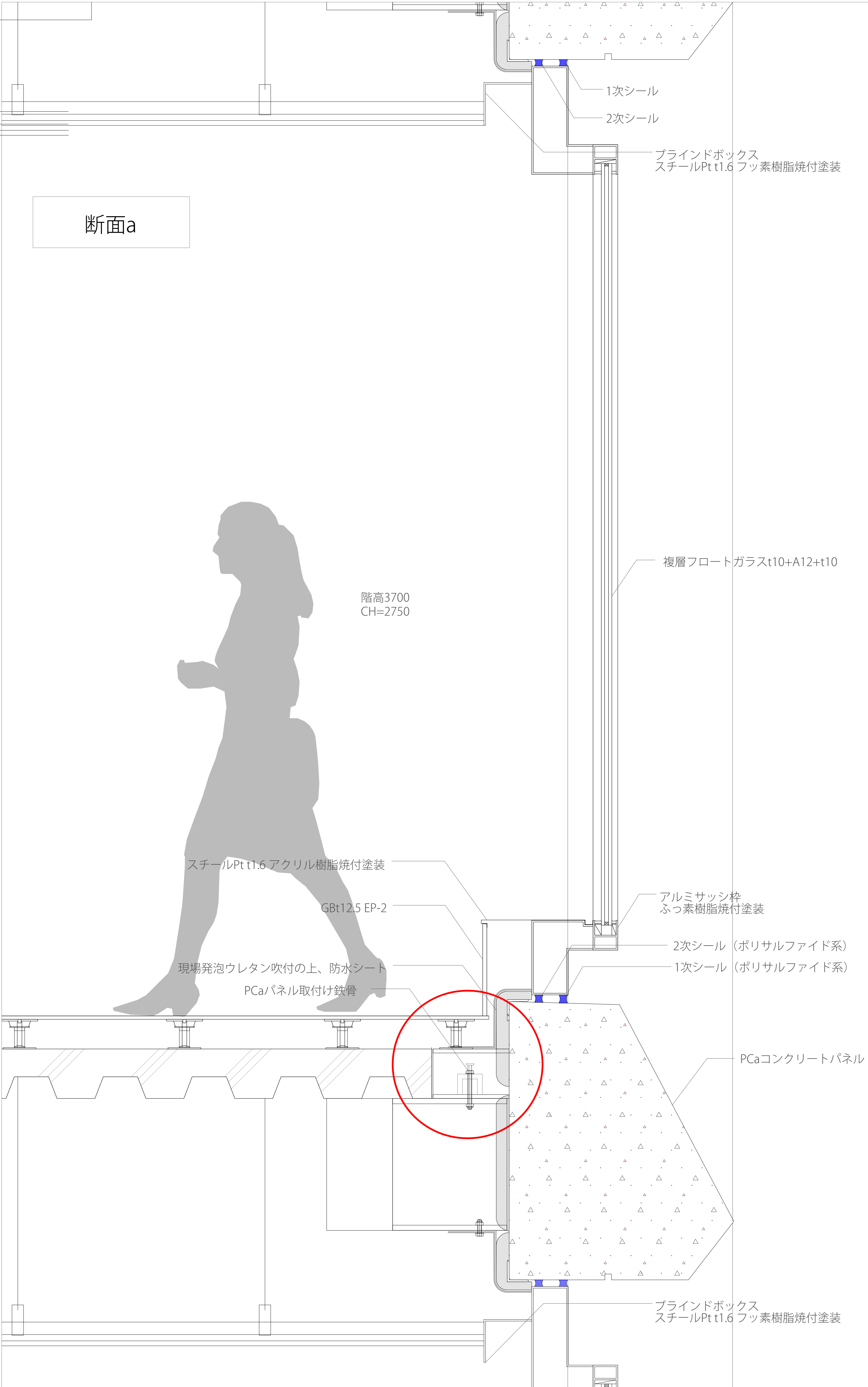


**上部で、面外方向の挙動を制し、水平方向には自由度を与え、  
ロック方式の揺れ方を許容する取り付けとする。**





断面a



とび出ている鋼材と、PCaからとび出ている鋼材とを  
ロック方式のファスナーで取り付ける。  
上下方向に自由を与えることで、  
ロック方式の挙動をするようになる。

断面c

階高3700  
CH=2750

1次シール

2次シール

ブラインドボックス  
スチールPt t1.6 フッ素樹脂焼付塗装

複層フロートガラスt10+A12+t10

スチールPt t1.6 アクリル樹脂焼付塗装

GBt12.5 EP-2

現場発泡ウレタン吹付の上、防水シート

PCaパネル取付け鉄骨

アルミサッシ枠  
ふっ素樹脂焼付塗装

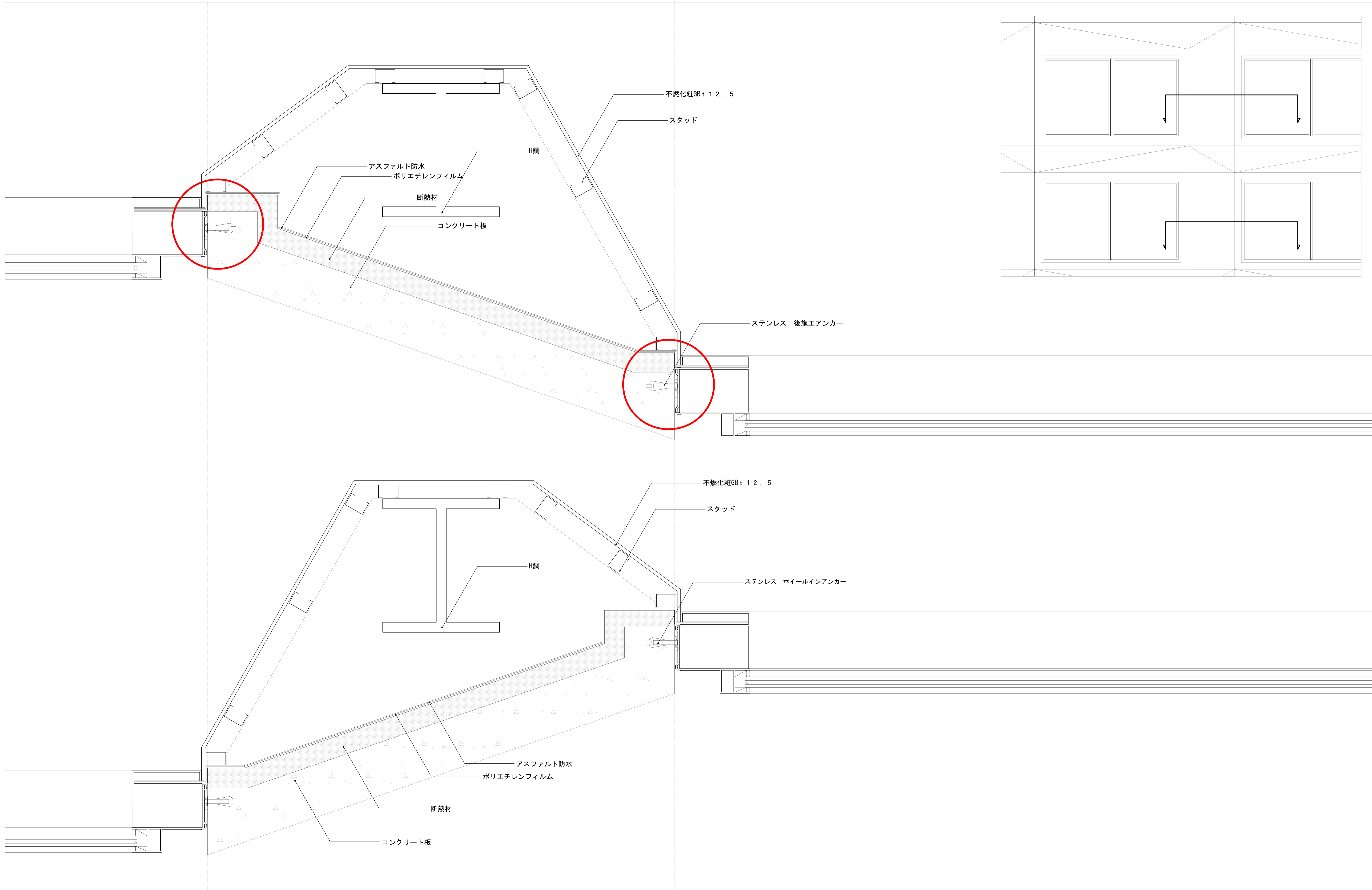
2次シール (ポリサルファイド系)

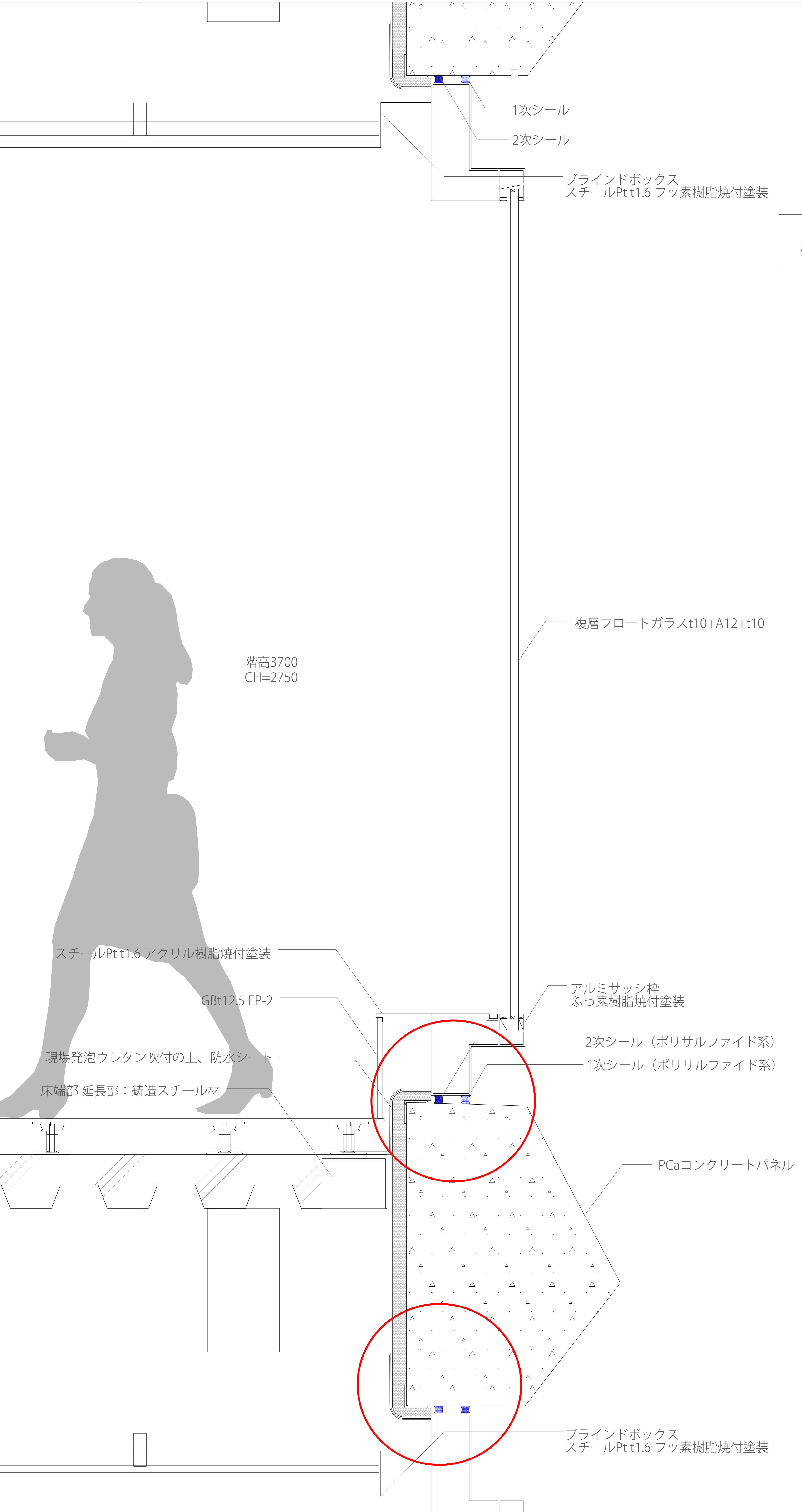
1次シール (ポリサルファイド系)

PCaコンクリートパネル

ブラインドボックス  
スチールPt t1.6 フッ素樹脂焼付塗装

前ページと同様。

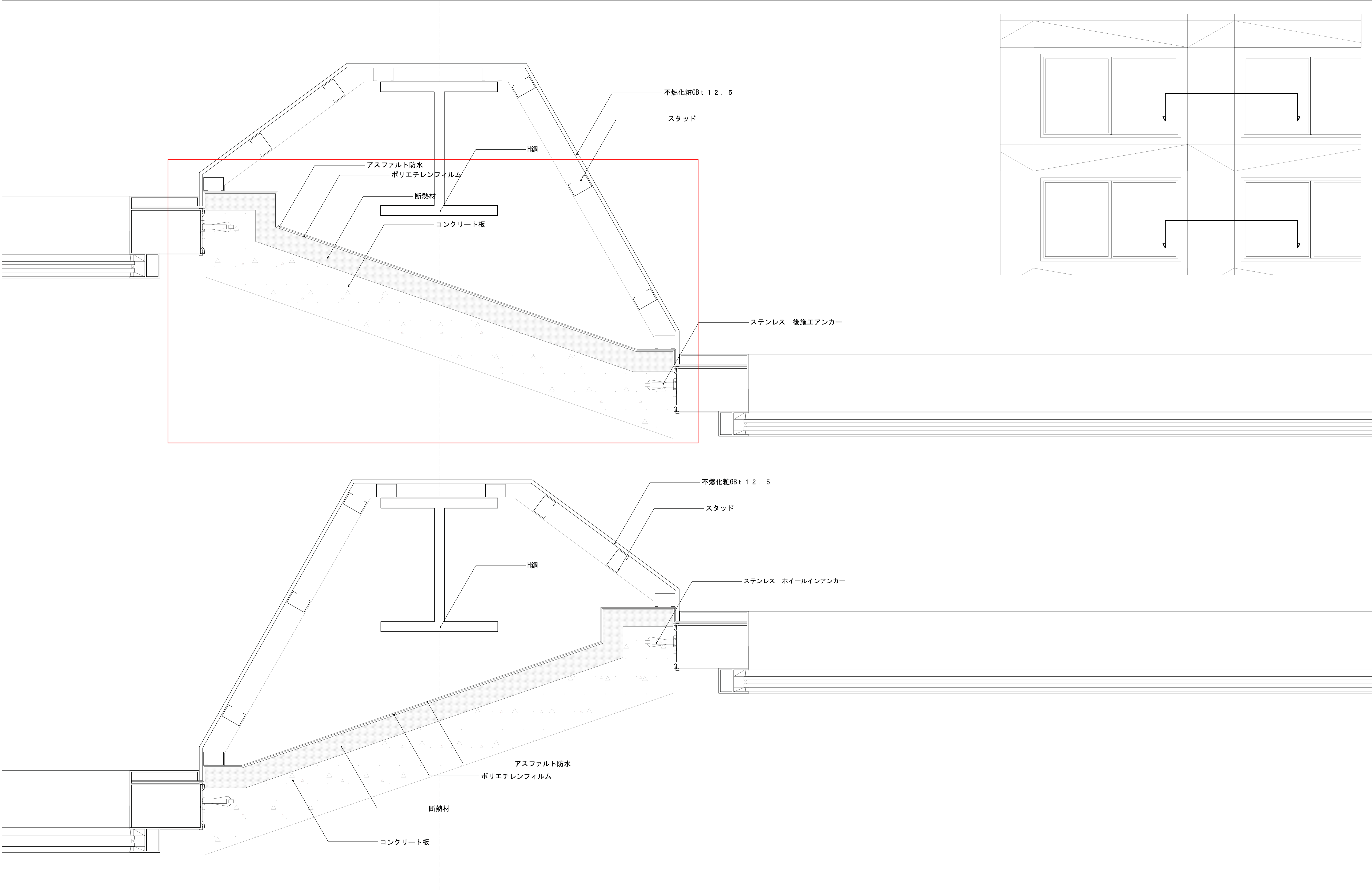


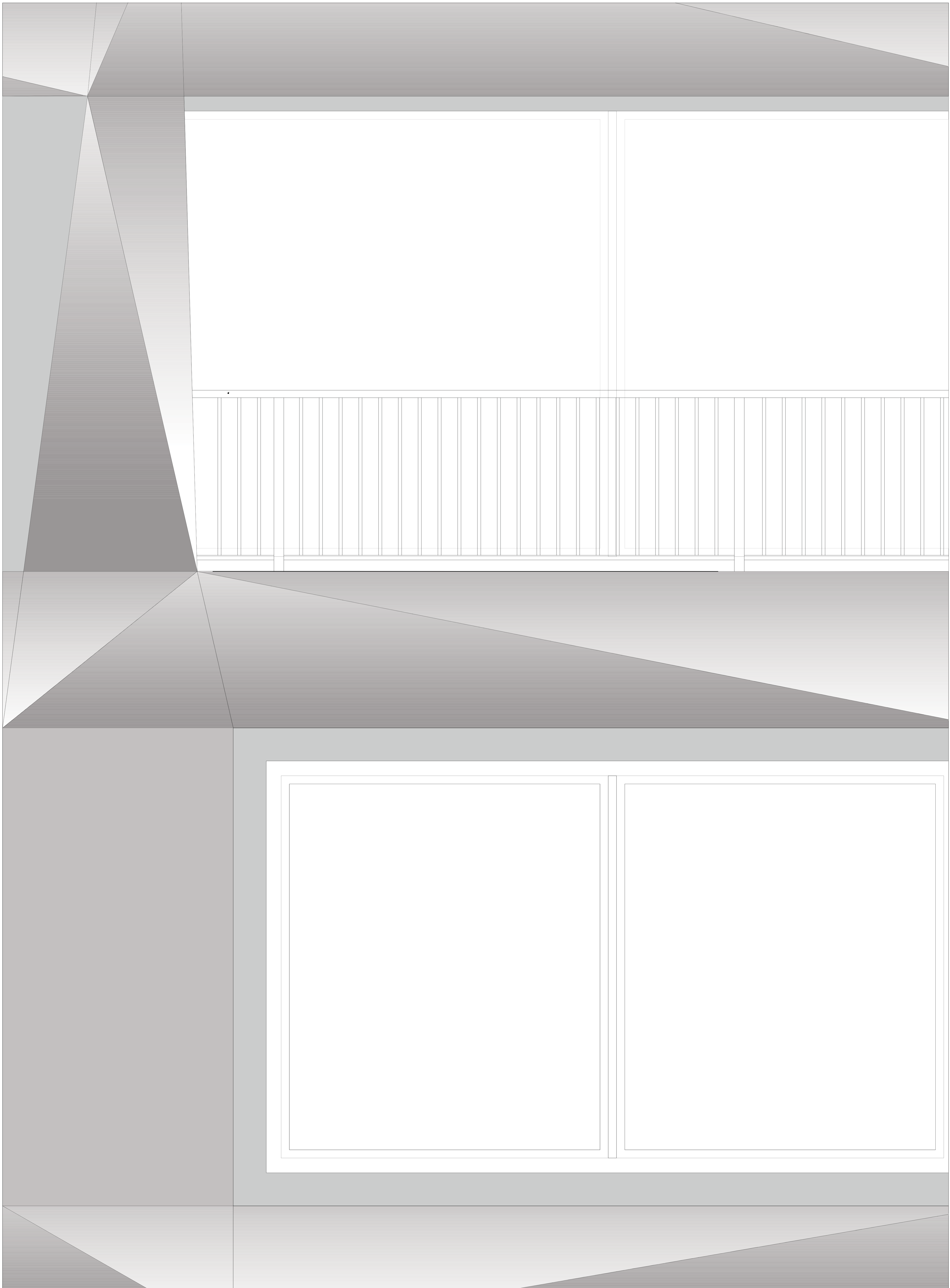


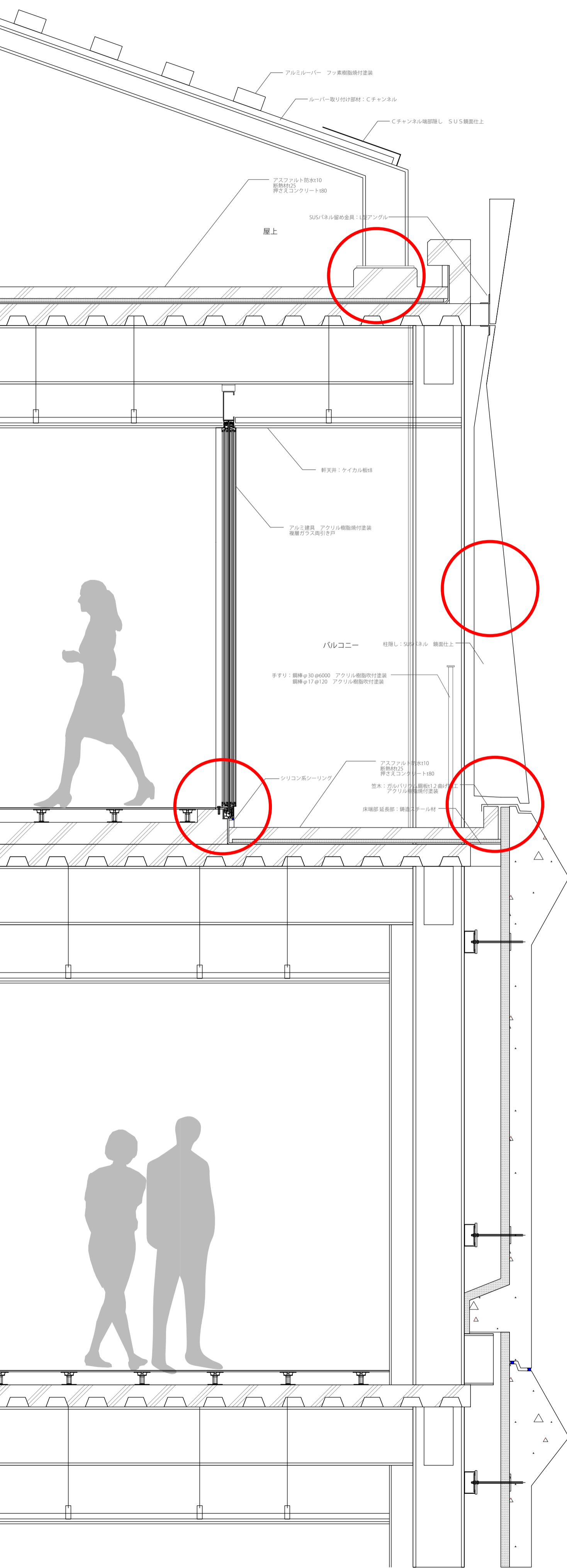
柱中心断面b

上下のPCa板とは、結合させず、シールのみとする。

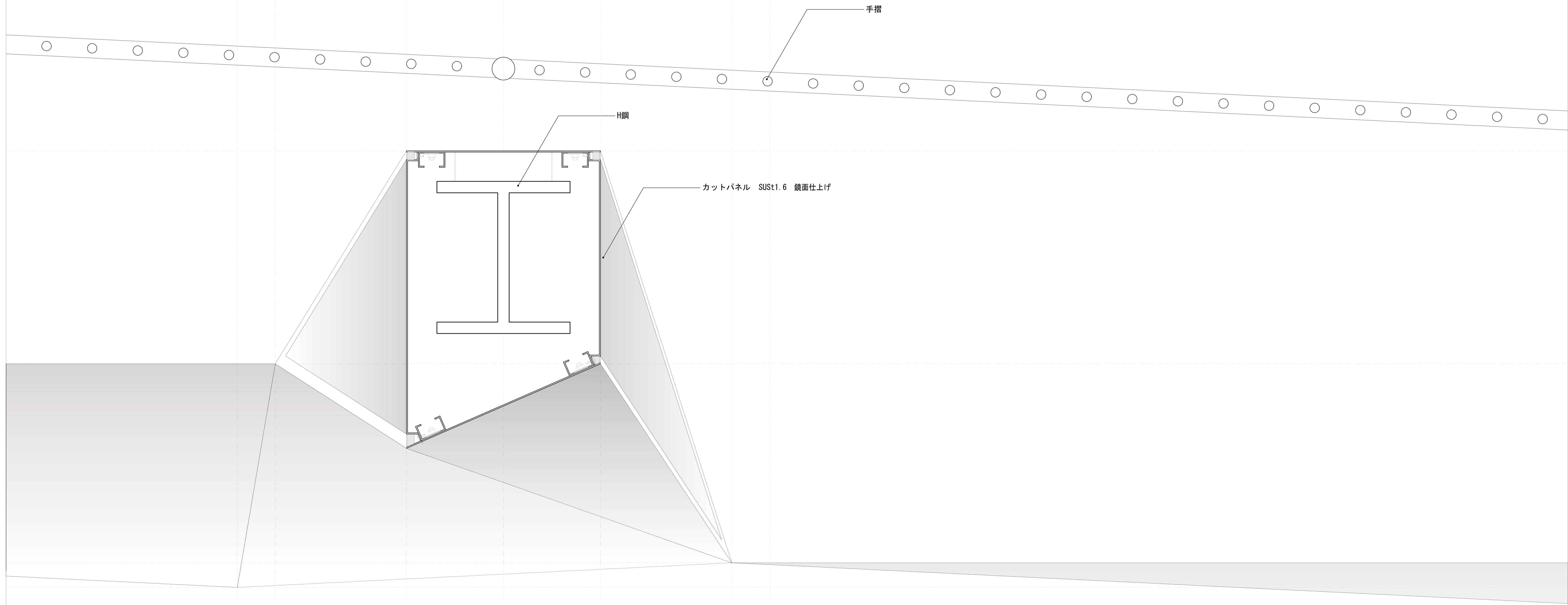
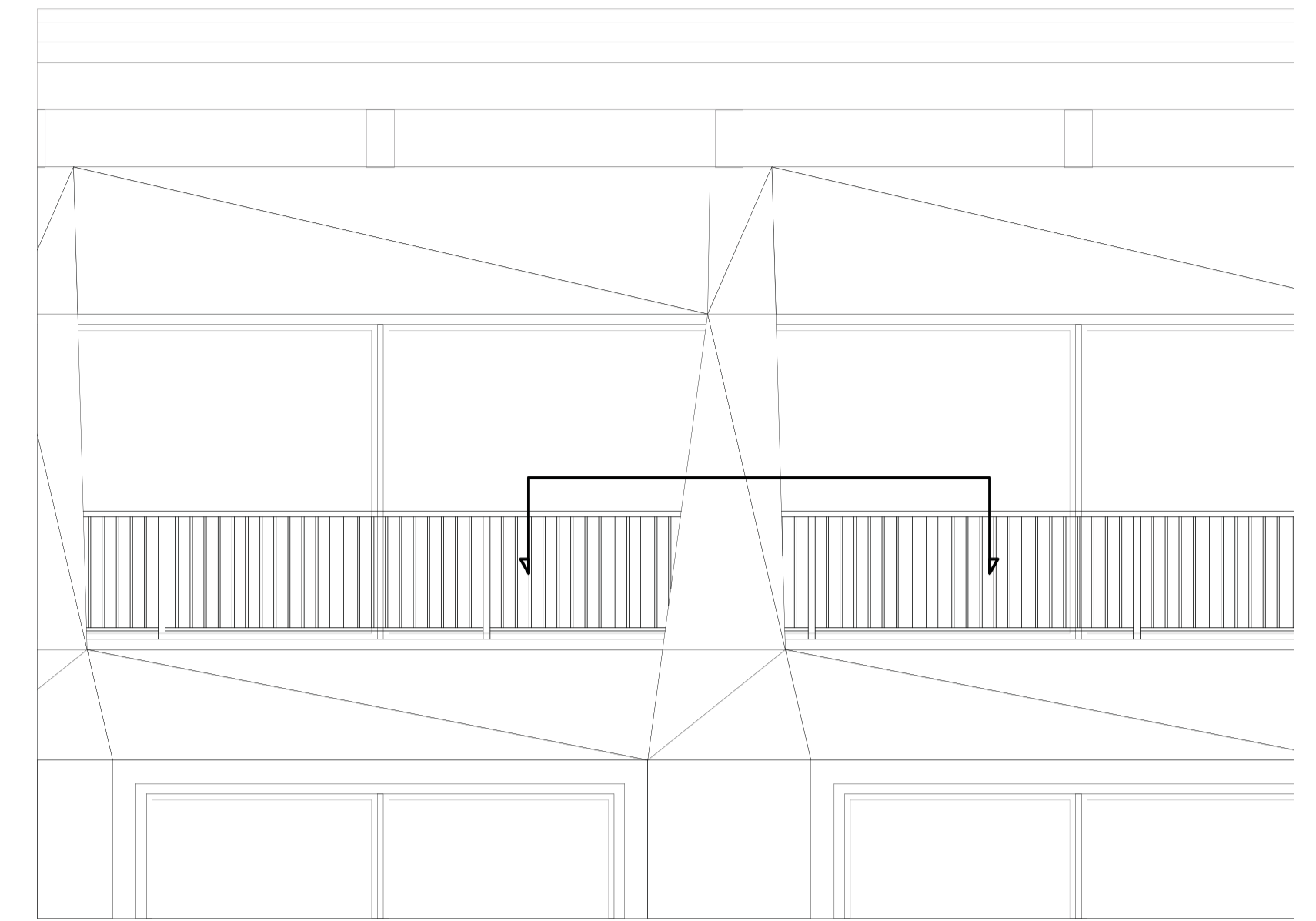




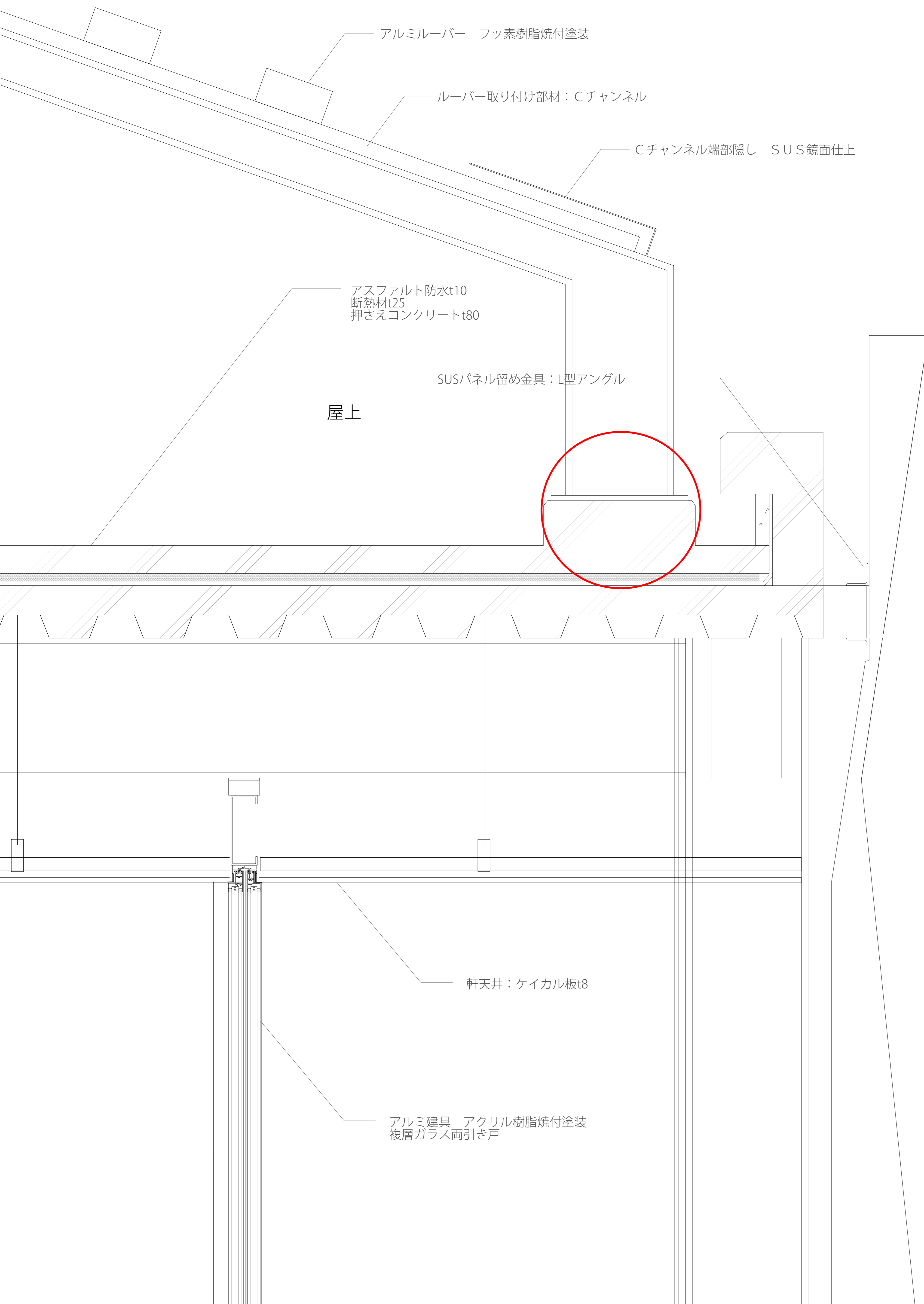




屋上部分では4つほど、収まりに特徴がある。

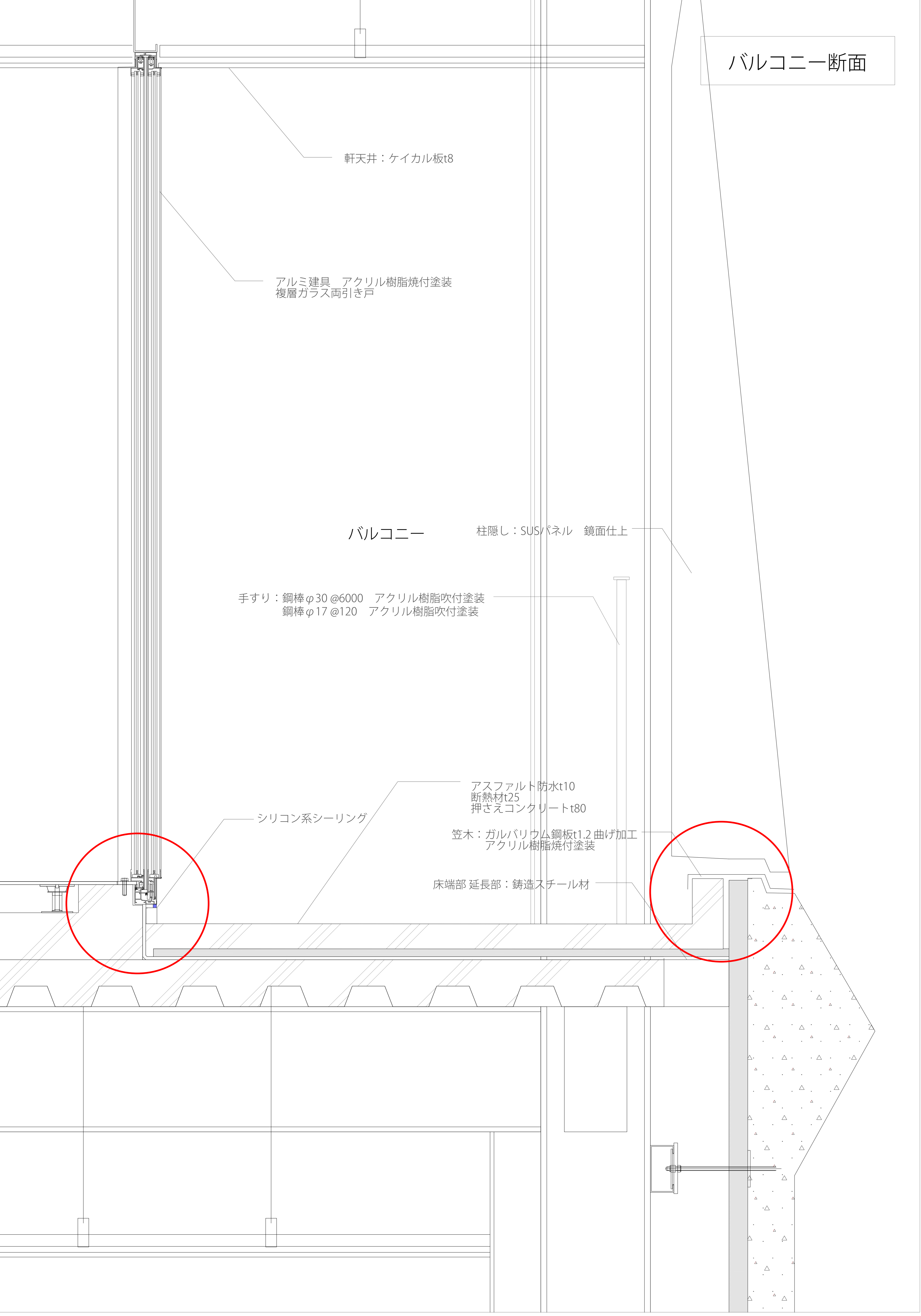


# 屋上断面



ルーバーを受ける構造材は、  
デッキスラブから立ち上がるのではなく、  
押さえコンクリート部分に基礎を打ち込んでつくる。

バルコニー断面



バルコニーは下部が居室のため、床部分は断熱 + 防水が必要。  
アスファルト防水 + 断熱材に押えコンクリートを施し、  
端部はPCa板をまたいでパラペットを設ける。

室内との取り合い部分では、段差が必要なため  
フラットな室内空間をつくるために、  
増打ちコンクリートとして段差を解消。

# 2012 Detail 研修

One Coleman Street PCa板外壁 岡本・橋本

おわり